

わが わが
濟河先生の著書「ウリ・トンポ（同胞）ウリ・トンネ（町・村）百話」
もう一つの神奈川史 ～ から シリーズ (5、6) 秦野市と高座郡

大磯から次は秦野を歩いてみたい。山を一つ越えろとすぐ秦野盆地が広がる。大磯に上陸した高句麗人たちは、既説のとおり関東各地へと広がり、その一つの中心勢力は埼玉県の高麗郷に落ちついたが、外の一部の人たちはこの秦野盆地にも定着したようである。しかしそれ以前に、朝鮮南部の新羅人や百濟人たちが定着して、この秦野を開発した痕跡も濃厚である。

秦野市の「秦」という字は、古代渡来人の豪族「秦氏」がここに居住したことに由来しているとよく言われているが、その「秦」はまた「海」や「機」に因んで、出来た名前であるという説もある。海の方は朝鮮、機は機織業を意味するから、朝鮮半島から日本へ海を越えて「機織」技術を伝えた一族であったので、秦氏と呼ばれるようになったというのである。

私たちが住んでいる神奈川県は、昔は相模国と言われ、合計八郡からなっていた。今の秦野市は、この八郡の中の『余綾郡』に属し、『幡多（野）郷』と呼ばれていた由緒ある村である。

『余綾郡』の「よろぎ」とは、大磯町海岸の小陶綾浜の「ゆるぎ」を文字った言葉で、その「ゆるぎ」とは水でゆりよどませ、良いものと悪いものを選び分けるという意がある。また「綾」とは絹のことであることから、「余綾」とは絹の名産地であるということに外ならない。こうして余綾郡という郡名ができたという説がある。つまり、相模川の流域に位置する余綾郡は秦野市を中心に良い絹を出産し、昔から機織が大へん盛んな先進地域であった。

高座郡は現在「こうざぐん」と呼ばれているが、昔は「たかくら」とも訓読みされ、もともとは『高倉郡』と呼ばれていた。高句麗の「クリ」が訛って「たかくら」になったためだという。昔の高句麗（高麗）人の広い居住地であったため、こうした郡名になったという学説である。

編集後記

昨年は、東日本大震災と福島原発事故で日本全国が激震に襲われ、アメリカがイラク戦争で国力を消耗して経済危機に陥り、EUはユーロ危機で崩壊の兆しが見え始めたと言われています。

特に、福島第1原発事故は、チェルノブイリ原発事故と同じ「レベル7」と聞いて驚きましたが、原子力発電の安全神話が崩れ、国家と密接に結びついた独占企業で強固な共同企業体の東電も国有化の道を進むようです。

国家権力と結合し、大学や研究機関との結びつきを強め、マスメディアをも支配することで国民支配を続けてきたことは、民主主義だの言論の自由だの人権だのという決まり文句で国民を支配しているまさに原発の安全神話と同様に民主主義神話というものではないかと思われてなりません。人々は自由意志で決断し、行動していると信じていますが、その自由意志そのものが金力や権力によって支配されているのではないかとときずかれます。

年が明け、今年はずっといい事があると直感しております。

今年、強盛国家の大門を開ける年、チュチェ101年、新しい100年の始まりです。

朝鮮半島に影響力を及ぼすであろう指導者の顔ぶれが全て新しくなり、朝・日ピョンヤン宣言10周年、北南共同宣言6.15（12周年）、10.4（5周年）の年です。

今年、まさに「スーパーイヤー」です。

そういえば、今年が壬辰年の辰年ですね。

辰が壬の年に会うと「北」を守る『黒龍』になると言われています。ビビックリ！

『黒龍』の年にふさわしく、同胞社会に成功や発展をもたらしてくれる事を願わずにはいられません。올해도 잘 부탁드립니다. (今年もどうぞよろしく願いいたします。)

米AP平壤支局開設

朝鮮中央通信によると、AP通信社（米国）平壤代理支局の開設式が16日、朝鮮中央通信社で行われました。開設式には、トマス・カーリー総社長を団長とするAP通信社代表団が参加し、朝鮮中央通信社とAP通信社間のAP通信社平壤代理支局の開設に関する合意書が調印されました。



トマス・カーリー総社長は支局を開設することにより、朝鮮の政治、経済、文化などを世界に伝えられるようになったことに触れました。

また、支局のメンバーから配信される朝鮮関連の記事と写真を通じて朝鮮に対する正確な理解が得られるものとの期待を表明しました。

参加者は、開設した支局を見て回った。

オンガイ ハライ
コラム 【영가이 하라이!】
シリーズ (4) 「老化防止」の虚と実

おかしな老化防止の話である。

「日本では、健康のためなら死んでもいい、というくらい極端な人がいる」
冗談交じりにそう話したところ、アメリカでも「ヘルシズム」という健康マニアが問題になっているという。老化予防のためにスポーツをやり、ボケ防止のために趣味を見つける努力をし、社会貢献活動に関わったりする人は、日米ともに少なくないようだ。挙げ句の果てに日本で流行っているのが、例の「脳トレ」だ。一桁の計算ドリルを速く解答するようなゲームをやれば脳の老化が防げるというのだが、これは俗説だろう。算数が認知症などの予防になるという医学的エビデンスは一つもない。「脳トレ」は脳血流量を増やすかもしれないが、脳血流量が増えることが良いことか悪いことかも分かっていない。いや、そもそも話として、貴重な晩節を足し算引き算のお勉強で浪費することが、人生の足しになるはずがない。暇つぶしにしても、他にもっとましなものがあると思う。

人間誰しも、いつかは老いる。大抵の人は、歳をとることを否定的に捉える。たしかに運動能力などの面で考えれば、老化は人としての衰えを意味する。しかし、加齢は失うばかりではない。老境に至ることで、人は円熟し、味わいを増す。得るものも大なのです。

近年、「生涯発達理論」というのが主流になっている。これは、動作能力こそ加齢とともに低下するものの、動作以外の面の多くは生涯にわたって発達するか、保たれるとする理論です。概念を作ったり価値判断をしたり、英知にまで高められた能力は、生涯にわたって発達していくというのが今の老年学の定説です。

例えば、甘みや苦味、酸味など、一つ一つの感応テストをやったら、若い人の方が上だ。だからといって、小学生の方が大人より優れたグルメというわけではない。大人になるにつれ、個々の味に対する敏感さが丸まっていき、感度が落ちていく。その中で、総合的な味覚が醸成されると、味の領域も広がっていく。

本来、苦味は毒を有するサインであり、酸味は腐敗を知らせる味である。春の山菜や、わさびのつんとくる香り、ビールなどを賞味できるようになるのは、それなりの年になってからです。

人間には防げない老化と防げる老化があります。防げない老化は生まれてから成長し、そして年をとっていく中で衰える、つまり生理的老化です。しかし、その人なりの生涯発達が可能で、本人の生き方次第では老化を防げますよね。心に年齢はありません。

『朝青横須賀支部忘年会2011』



19人の朝青員が集まりました。メニューは鍋、からあげ、うずらウィンナーなど。特にエミトムが準備を頑張ってくれました。ちょっとしたゲームや一年間を振り返るVTR、そして大抽選会では特賞ディズニーランドペアチケット争奪戦等、楽しい企画盛りだくさんでみんな大満足でした。

今年も朝青は若いパワーで、楽しくアットホームな支部づくり、そして地域社会に貢献できるようがんばりたいと思います。

皆さん！春には旅行、ハイキングに出かけましょう。



年間予定

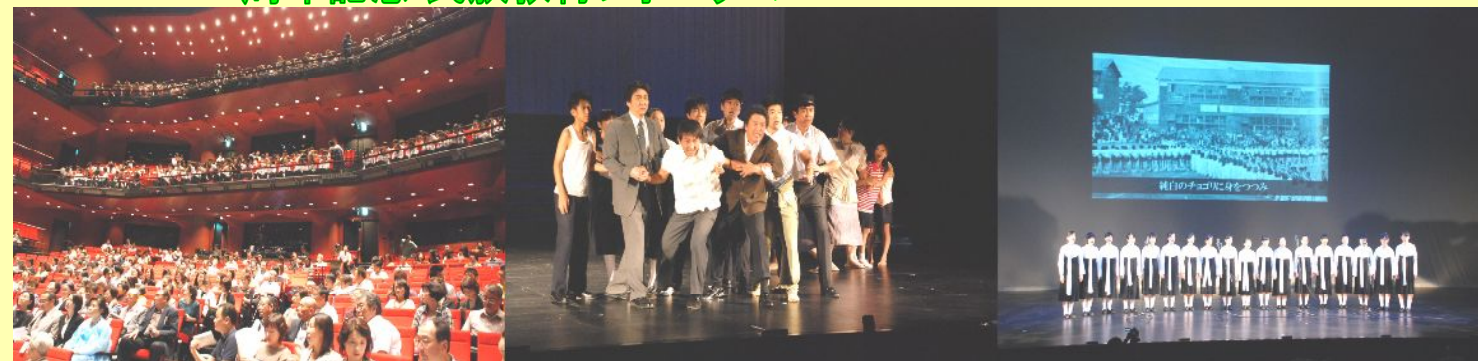
- ◆ 2/ 5 (日) : 神奈川県団体役員新年会 (県本部、商工会共催) (商工会、女盟、朝青、長寿会) 体育館 10:30
- ◆ 2/9~10 : 横須賀商工会確定申告
- ◆ 5/13 (日) : 2012 神奈川同胞文化祭 関内ホール
- ◆ 5/28~6/4 : 第50回神奈川日朝友好展 市民ギャラリー (6/1 (金) 記念祝賀宴)
- ◆ 9月 : 金剛山歌劇団公演
- ◆ 10月 : 神奈川県地域分会対抗運動会

昨年を振り返り、今年を飛躍の年に

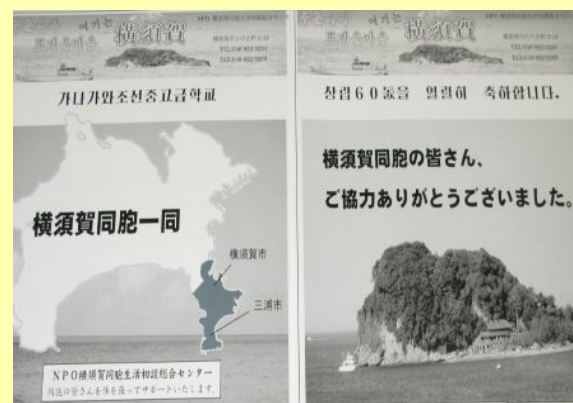
神奈川朝高創立60周年記念祝典



60周年記念 民族教育フォーラム



横須賀の同胞の皆さんコマッスンニダ。



60周年の広告集から。

神奈川朝鮮中高級学校創立 60 周年を意義深く盛大に迎えることができました。フォーラムをはじめ記念行事を通して足元は在日に、目は世界に向けた人材教育の成果を目の当たりにし、神奈川民族教育の可能性を改めて確認することができました。

横須賀でも 1,242,000 円の寄付金を集め、60 周年に寄与することができました。

横須賀の同胞の皆さん、本当にありがとう御座いました。